

須田国太郎作 「鵜」 1952 京都国立近代美術館

当館企画展

須田国太郎展 —没後50年に顧みる—

■ 尊經閣文庫名品展

—職人歌合の世界—

■ 秋の優品選

—琳派を中心に—

■ 知られざる鴨居 玲

須田国太郎展

— 没後50年に顧みる —

主催・石川県立美術館、日本経済新聞社 特別協力・京都国立近代美術館

9月1日(土)～10月14日(日) 会期中無休

学芸員の眼

「須田の絵はマチエール(絵肌)が複雑であるにもかかわらず、しっかりとキャンパスに絵具が着いている。」というのが、今回須田作品を見た際の感想です。だよりの前号でも述べましたが、消して描くと言われたくらい、須田は描いては削りを繰り返して、作品を作り上げて行きます。途上での変更も多いようですし、こうした作品は往々にしてダメージが蓄積され、変色や亀裂、剥落などが見られるというのが、日本の油絵ですが、須田の場合は違ってきます。これはやはり、スペインでバロック絵画など古画の模写を多数行った上に、技法理論の研鑽を怠らなかつたことと思われまふ。

もう一つ、写実とは一体何かということをおもうのです。最近では写真のような克明な絵が流行っています。これはこれで凄くおもうのですが、須田の場合、正確に形を描くということではなく、崩れていたり、時には抽象性を帯びたりもするのですが、生命が息づいていると感じます。絵は画家の眼と手による自然界の再構築、そうした思いを強く感ずる作品群です。

本展は須田国太郎(一八九一～一九六二)の没後五〇年にちなみ、初期から晩年まで、「法観寺塔婆」、「犬」、「鶴」など代表作を含め、約一三〇点(油彩一二一点、素描約一〇点)により、独立美術協会会員、日本芸術院会員として活躍した須田の創作の歩みをご覧いただくものです。

展示構成は【渡欧前】、【渡欧・模写】、【第一回個展から大戦へ】、【山間風景】、【動物と花の描かれた風景】、【人里の風景】、【スケッチ】、この七つの章に分け、各章ごとにほぼ年代を追って展示します。

須田は京都帝国大学に学び、油絵は独学で、デッサンを関西美術院で学びました。第一章の【渡欧前】ではこの時代の自画像や風景をご覧いただきます。第二章では、大正八年から一二年まで須田はスペインに滞在しプラダ美術館でティツィアーノやティントレットなどヴェネツィア派の作品を模写しますが、この時描いたティントレットの「水陸の戦い(ヘレネの掠奪)」の模写など、勉強のあとがうかがえる大作を展示します。

昭和七年、四一歳の時に、須田は初めての個展

を東京銀座の資生堂ギャラリーで開きました。ほぼ黙殺されたと後に須田は語っていますが、代表作の一つ「法観寺塔婆」はこの時に出品されています。初個展時から太平洋戦争末まで須田の旺盛な創作が続き、次々と名作が描かれました。

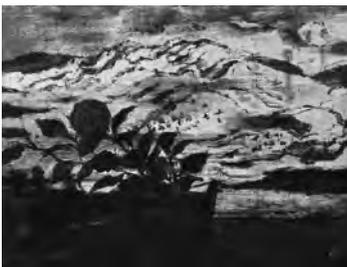
第四章以降は、年代を追うのではなく、須田の風景と動物、花といった主要テーマごとに作品を集成しました。主題に基づいた作風の変化をご覧いただくという構成です。

油絵とは何か、日本・東洋画と西洋画の違いは何か、生涯をかけて挑み続けた須田国太郎の画業をぜひご覧下さい。

■ 展覧会料金

一般	一、〇〇〇円(八〇〇円)
大学生	六〇〇円(五〇〇円)
高中小生	三〇〇円(二〇〇円)

※()内は二〇名以上の団体料金



椿 1932 姫路市立美術館蔵



ティツィアーノ作「ヴィーナスとオルガン奏者」
模写 1919 京都市美術館

尊經閣文庫名品展

—職人歌合の世界—

9月1日(土)～10月21日(日) 会期中無休

講演会

九月二日(日) 午後一時三十分

会場 当館ホール 聴講無料

演題 須田国太郎の作風解釈

講師 原田平作(はらだ・へいさく)氏

大阪大学名誉教授

ミュージアムコンサート

十月六日(土) 午後二時三十分

会場：当館ホール(定員二〇九名) 無料(要整理券)

谷内直樹ギターリサイタル

スベインギターの名曲をお楽しみください。

往復はがきで当館までお申込ください。九月二十六日(水)必着

往信用の表面 千九二〇一〇九六三 金沢市出羽町二一

裏面 石川県立美術館 谷内直樹ギターリサイタル宛

返信用の表面 申込者の〒番号、住所、氏名、年齢、電話番号

裏面 何もしかないでください。当館で応募結果を印刷します。

応募者多数の場合は抽選となります。

職人歌合とは、様々な職人が左右に別れて番いをつくり、それぞれが和歌を詠み、その優劣を定める判者も職人が行うという文学的な遊戯の歌合に、職人像が描きこまれたものです。鎌倉時代の念仏会や放生会のおりに開催された『東北院歌合』・『鶴岡放生会職人歌合』、室町時代に成立した『三十二番職人歌合』・『七十一番職人歌合』が、歌合絵巻として今日に伝えられています。『七十一番職人歌合』とは、一四二種の職人に仮託して、七十一番の取り組みで、月と恋の歌題のもとに、二八四首の和歌を競う中世後期の最大規模の歌合です。その序文・歌・画中詞等から明応九年(一五〇〇)頃に成立した歌合と考えられています。前田家の『七十一番職人歌合』は、加賀藩三代前田利常の箱書より、慶安元年(一六四八)春に、後水尾上皇より下賜されたもので、絵の筆者は不明です

が、上巻(序)第二十三番)は高倉永慶、中巻(第二十四)四十六番)は飛鳥井雅章、下巻(第四十七)七十一番)は白川雅陳が歌と詞書を記しており、この三者の生没年より正保年間(一六四四)四八)頃に模写されたものと思われます。利常はこの歌合絵巻を納めるための「蓮詩絵箱」を加賀蒔絵の祖といわれる五十嵐道甫に作らせて、二代前田利長の菩提所である高岡の瑞龍寺に同年七月二十日に寄進しましたが、明治時代に前田家に戻っています。もう一点の『七十一番職人歌合』は、貞享元年(一六八四)頃に、鶴岡放生会職人歌合』は延宝年間(一六七三)八一)頃の模写本で、いずれも五代前田綱紀が収集するために模写させたものと思われま

す。本展は二種類の『七十一番職人歌合』と、『鶴岡放生会職人歌合』の初めての全貌公開です。

時絵蓮函箱(職人歌合絵巻箱) 五十嵐道甫作 1648
七十一番職人歌合(中巻)【部分】 江戸時代 17世紀

学芸員の眼

『七十一番職人歌合』に登場する職人は、番匠・鍛冶などの伝統的な工人に、縫物師・組師などの女性工人、魚売りや米売りなどの行商人に、今日的な考え方をすると職人とは言えない芸能者や宗教者、さらには遊女など非常に多岐にわたっています。この時代は、特殊な技術や能力を持ち、それを生業とする人々(職能民)のことを、「道々の者」と呼んでおり、「職人歌合」は中世末から近世初期にかけて通称されるようになったのであり、当初は「道々の者」の歌合ということになります。描かれた人物の余白部分に画中詞として、職人たちの会話や口上が記されていて、これは他の歌合絵巻には見られない特徴でもあり、当時の「道々の者」(職人)の様子を知る上で貴重な資料ともなっています。

百万石の文化講座
「職人歌合の世界」
講師/菊池紳一氏
(公財)前田育徳会理事
九月十六日十三時三十分
美術館ホール・聴講無料

知られざる鴨居 玲

9月1日(土)～10月21日(日) 会期中無休

鴨居玲の絵にはある種のイメージがついて回ります。暗い、重い、怖い、人によってはおどろおどろしい、あるいは芝居がかっている。ですが、鴨居の書いた文章を読んでもみると、ユーモアのある、ひょうきんな、そして暖かい人柄だと感じます。当館の持っている鴨居資料の中に九州のある大学の講師として学生達と交流している写真があります。それなどはまさにほじけてるとしかいいようのない、朗らかに笑う鴨居の姿が写されていて、この様な表情をされる人なのかと驚いたものでした。

以前に「アトリエの鴨居玲」という展示を行ったことがあります。それは鴨居が愛用していた椅子やソファ、机、テーブルなどの家具を展示室に持ち込み、椅子に座り、机に手をかけながら、作品をご覧いただくという趣向で行ったもので、鴨居ファン垂涎の企画といえたのではないのでしょうか。

毎朝の点検時に椅子に座って、テーブル越しに「望郷を歌う」やイーゼルに掛けた赤いピエロの自画像などを見ていうと、「ダイジョウブダヨ」という声を聞いた思いがしたものでした。鴨居の人氣、それは一見おどろおどろしい絵が発する暖かみにあるのだと感じた次第です。

さて、今回の特集では、これまで紹介せずしてきた制作途上の鴨居の絵や、書き付け、遺品などを館蔵の代表作と交え、鴨居の人氣、制作意図や創造の過程などを示せばと思っております。ご期待下さい。

秋の優品選
—琳派を中心に—

9月1日(土)～10月21日(日) 会期中無休

桃山時代末期の慶長年間(一五九六～一六一四)、京都に新しい造形運動が生まれました。その特徴は、平安時代末期の十二世紀に制作された「平家納経」や「源氏物語絵巻」に代表される善美を尽くした造形を、新たな時代感覚のもとに復興することでした。

中心となった人物は本阿弥光悦(一五五八～一六三七)で、能書家として活躍する一方日本の装丁や漆芸、陶芸なども手がけるなど、今日で言うアートディレクター的な仕事をしていました。そして、光悦が和歌などを揮毫する料紙の装飾を担当していた一人が俵屋宗達(生没年未詳)でした。

宗達は扇や色紙に絵を描くなど、絵屋を主宰

する町絵師だったと考えられています。しかし千利休の嗣子、少庵を振舞に招くなど高度な教養もありました。やがて宗達は光悦との共同作業を離れて独立した画人として活躍し、「風神雷神図」をはじめ多くの個性あふれる名作を描きました。その宗達が世を去って百年余り後に、尾形光琳(一六五八～一七一六)が京都の呉服商「雁金屋」の次男として生まれました。光琳は光悦や宗達に私淑し、生来の卓越したデザイン感覚で先人の作風を様式化しました。そこで今日、光悦に始まる一連の造形運動が「琳派」と総称されるようになりました。今回の特集では、これら三人による書跡、絵画、漆芸の優品を展示します。



石川県指定文化財
本阿弥光悦
「光悦色紙貼交秋草図」(部分)
江戸17世紀

コレクション展示 今月のみどころ

9月1日(土)～10月21日(日) 会期中無休

第4展示室 【彫刻】 小特集

「ぐるりと廻ってながめてみよう」

彫刻は「立体造形」であるとともに「空間芸術」であるともいわれ、作品はどの角度からも鑑賞の対象であると言えましよう。さらに彫刻は、伝統的な「量塊の芸術」だけに止まらず、内部を見せる作品や中空の作品や穴が空いて向こう側の景色がみえるような作品など、見る角度によって様々に異なる意識を示す作品も多く見えるものとなっています。

本展は、ぐるりと作品の回りを廻っていただき表裏・内外などで異なりを見せる作品相貌の変化や作品の回りの風景や光も取り込んだ作品など、多様で多彩な表情の作品をご覧くださいたくものです。



未政哲夫 正三角形の内と外

第5展示室 【近現代工芸】 今月の初展示作品

「二塚長生 友禅着物「新潮」

第五展示室では九月一日から二十八日まで、平成二十二年に友禅で人間国宝に認定された、二塚長生氏の「友禅着物 新潮」を、本仕立て後初めて展示します。

本作は作者が、紙塑人形の人間国宝で、歌人でもあった鹿児島寿蔵の歌「このあした 光をうけし大海は 一時にわきし新潮と思ふ」に感銘を受けて制作したものです。

流れの違う潮がせめぎ合い、陽の光を受けて輝く様子が、友禅の糸目糊で丹念に描かれ、線の白を生かした寒色系の絶妙な配色とともに、素晴らしい調和を生んでいます。作者の技術と感性が遺憾なく発揮された、無限の広がりを感じさせる作品です。この機会にぜひご覧ください。



二塚長生 友禅着物「新潮」

第6展示室 【日本画】 「日本画 空のかたち」

日本美術が、空を描くことに本気を出し始めたのはいつからでしょう。平安期以降の「大和絵」では、空は関心の対象とあまりされていません。当時は、もっぱら地上の出来事に関心を払っていたようで、俯瞰された構図からは、ごく一部の作品を除いて空が描かれることはありませんでした。雲さえも「金雲」となり、余計な物を隠す道具とされました。その後も月や旭日、さらには龍が描かれることはあっても、空そのものに関心が払われることは殆どなかったのです。

近代以降の日本画が空をどのように扱ったのか、十点の当館コレクションから見る小特集です。



石川 義 杉木立

土曜講座

9月からのご案内

回	月日	内容(予定)	担当
土曜講座(中期)			
第1回	9月8日	琳派の美意識	村瀬
第2回	9月15日	知られざる鴨居玲	二木
第3回	9月29日	美術にみる色 ―青―	西田
第4回	10月13日	飛鳥彫刻と止利仏師	谷口
第5回	10月20日	よくわかる日本画―日本画誕生前夜―	前多
第6回	11月10日	石川県の漆芸	南
第7回	11月17日	前田家の美意識 ―収集と育成―	高嶋
第8回	11月24日	石川の近代彫刻 吉田三郎を中心に	北澤
土曜講座(後期)			
第1回	1月19日	山川コレクションと金沢の文化	高嶋
第2回	1月26日	竹沢基と金沢の油絵	二木
第3回	2月2日	世界遺産を訪ねて4 京都	谷口
第4回	2月9日	近現代の仏教彫刻について	北澤
第5回	2月16日	美術にみる色 ―赤―	西田
第6回	2月23日	世界遺産を訪ねて5	谷口
第7回	3月2日	美術にみる色 ―黄―	西田
第8回	3月9日	繰り返す意匠 型染と染めの型紙	寺川

例年当館では、県民の皆様の美術文化の興味と関心を高め、また展示作品の理解の一助を目的として毎週土曜日に当館学芸員が講師となり、土曜の午後一時三〇分から約一時間三〇分、当館講義室で美術に関する講座を開催しています。

本年度は、各学芸員の自由テーマによる、前・中・後期の三期の計二十四回を開催する予定です。

九月からの講座では、講座開講時に開催中の展示に関連した内容の講座のほか、地元石川県の美術史や作家に係る主題、また各学芸員が担当するジャンルの話題や日頃、学芸員が調査している課題、さらには各学芸員がライフワークとしているテーマ等々、多彩な内容の講座を予定しています。

郷土の美術文化や美術作家の作品紹介、芸術論などの理解を深める機会になることを願っております。

受講は無料で、ご自分の聴講したい講座を自由に選んで参加できますので、どうぞお気軽にご参加いただけますようご案内申し上げます。

本年度九月からの美術講座は、左記の内容を予定しています。

ミュージアムレポート



六月末から今年度の学校出前講座がはじまりました。今年度は、小松地区から開催の要望がたくさんあり、第一回の出前講座も小松市の西尾小学校からでした。

西尾小学校は、周囲に山が見渡せる自然豊かな地域に立地。美術館を訪れたことがある子どもも少なく、まさに出前講座を行うのにふさわしい学校です。子どもたちの様子は、大人しい印象はあるものの、時間を経るごとに発言してくれる子が増えていきました。

七月三日は、羽咋市立羽咋小学校。こちらは、各学年三クラスの比較的大きな学校です。通常は学校での一時限、小学校ならば四十五分間に一クラスずつ授業を行っています。ですが、羽咋小学校では三〇分間の授業時間で行いました。時間が短くなることで、子どもたちにこの出前講座で伝えたい事を落とさないよう授業の流れ工夫し、そのことは私たち学芸員にとっても貴重な体験となりました。



七月九日は、一昨年も出前講座を開催した加賀市立片山津小学校。前回の講座が気に入って頂き、三月下旬の早い時期からお申し込みいただきました。前回の講座でもそうでしたが、子どもたちがそれぞれが自分の意見を持ち、しかも、それを皆の前で憶することなく発表できる校風があることを改めて感じました。

学校出前講座は、このあと十一月まで七校に何う予定をしています。作品に出会った時の子どもたちの反応や、作品について語るその内容など実に様々で、いつもどんな子どもたちに会えるか楽しみにしています。今後各学校での子どもたちの様子をこの美術館だよりでお知らせいたします。



第43回 文化財現地見学 参加者募集

美濃の名刹をめぐる ー岐阜を訪ねてー

期日／平成24年10月27日(土)～28日(日) 1泊2日

日程／出発・十月二十七日 午前七時

帰着・十月二十八日 午後七時頃

発着／金沢駅西口

※移動は全て貸し切りバスを使用します。

参加代金／友の会会員 一九、〇〇〇円

会員以外 二〇、〇〇〇円

◆主な見学地

【永保寺】(臨濟宗南禅寺派)

夢窓国師開創で、「虎溪山」の山号でも知られます。名勝の庭園、国宝建築を有する趣あるお寺です。今回は国宝建造物内を特別拝観させていただきます。

【願興寺】(天台宗)

「蟹薬師」の名で親しまれる、最澄由来の古刹。二〇体以上の平安鎌倉の重文仏像を一度に拝見できます。

【新長谷寺】(真言宗智山派)

境内に、檜皮葺の美しい室町建築が並ぶお寺です。七堂伽藍と呼ばれる整然としたその姿は見事です。

【乙津寺】(臨濟宗妙心寺派)

日本三昧除厄弘法の一つに数えられ、空海が「梅の寺」と詠んだと伝えられます。十一面千手観音像や堂本印象の天井画などの文化財を拝見できます。

【横蔵寺】(天台宗)

最澄創建とされ、「美濃の正倉院」といわれるほど文化財を有することでも知られます。雰囲気あるお寺で、深沙大將像など珍しい仏像もみられます。

【華厳寺】(天台宗)

「谷汲山」として広く信仰を集める、西国三十三ヶ所巡礼満願のお寺です。笈摺堂や満願堂などからも巡礼の心が感じられます。

◆申込み方法

往復はがきに「文化財現地見学」希望と明記し、氏名・年齢・性別・郵便番号・ご住所・お電話番号・会員番号を記入の上、ご応募ください。

◆宛先

〒九二〇一〇九六三 金沢市出羽町二一

石川県立美術館「文化財現地見学」係

◆応募締切り

平成二十四年十月六日(土) 必着

※行程に徒歩による移動や坂道、階段が含まれます。脚に自信のない方はご注意ください。

※応募者多数の場合、抽選になります。

九月の行事予定

百万石の文化講座	13時30分	美術館ホール	聴講無料
16日(日)	「職人歌合の世界」	講師 菊池紳一氏(公益財団法人前田育徳会理事)	
ビデオ上映会	13時30分	美術館ホール	聴講無料
9日(日)	「世界・美の旅13 ベラスケス」	「素顔の宮廷画家」(30分)	
	「世界・美の旅14 ゴヤ」	「魅惑の裸のマハ」(30分)	
23日(日)	「世界・美の旅15 ルーベンス」	「ネロの愛したルーベンス」(30分)	
	「世界・美の旅22 ティツィアーノ」	「ヴェネチアの巨匠」(30分)	
30日(日)	「続・美術のみかた10 洋画と日本画」	「日本近代美術の出発」(25分)	
	「ヨーロッパ美術史7 華麗なるバロック」(30分)		

※土曜講座については6ページを参照下さい。

須田国太郎展開関連行事は2ページを参照下さい。

ご利用案内

コレクション展観覧料
 一般／三五〇円(二八〇円) 大学生／二八〇円(二二〇円) 高校生以下／無料
 ※()内は団体料金 毎月第一月曜日はコレクション展示室無料の日(九月は三日)
 九月の開館時間 午前九時三十分～午後六時 カフェ営業時間 午前十時～午後七時
 九月は休まず開館しています

鴨居 玲 かもい・れい 昭和3年(1928)～昭和60年(1985)



鴨居玲がスペインに渡ったのは一九七一年二月、七四年にはパリに移り、帰国は七七年二月。六年間の海外での制作でした。年令でいえば四三歳から四九歳、画家としての充実した創作活動をこの間展開しました。主題は酔っぱらいや、廃兵、老婆など。「美」と「醜」に区分すれば、むしろ「醜」に属する人々です。

帰国後新境地を求め、若く美しい裸婦をテーマとしました。しかし、対象の美を讃えるのではなく、その中に潜むドラマを描く鴨居は、裸婦イコール美ではない何か、を求めているのです。でも、それはなかなか答を得ることができなかったようです。本作は「エチュード」、つまり「習作」と題されたのでした。

黒の衣服を肌脱ぎにした姿は、本来エロティシズムを感じさせるものですが、この作品にはあまりうかがえません。瞳が描かれない目、ざらざらとしたタッチ、そしてなによりも黒くたくましい腕は、裸婦像が本来持つ華やきを削いでいます。腹や腿の柔らかな肉付けとは対照的に、腕と手は女性のものとしては筋肉質で硬く、鴨居は本作の翌年、抱き合う男女が石と化す「石の花」を描くのですが、ここで女性を抱きしめる男の手と同質に見えるのです。あるいは「ÉTUDE(A)」の裸婦には女性と男性が交錯しているのかもしれない。

次回の展覧会

前田育徳会 尊経閣文庫分館	第2展示室	第4展示室	第5展示室	企画展示室
特別陳列 加賀藩の美術工芸	石川県の名宝 —国宝・重文・県文—	特別陳列 能登の彫刻家たち	特別陳列 生誕100年記念 寺井直次の漆の美	第59回 日本伝統工芸展金沢展 会期：10月26日(金) ～11月4日(日) 再興第97回院展金沢展 会期：11月15日(木) ～28日(水)
会期：10月25日(木)～11月28日(水)				

広告



明治10年8月、
加賀藩 前田家の出資により創業。

金沢支店 / 〒920-8686
金沢市南町5-28 TEL.076-263-5131



●金沢第十二国立銀行開業免許の写
(北陸銀行金融歴史資料館蔵)

www.hokugin.co.jp

お客様の「うれしい」を、私たちの「うれしい」に。北陸銀行

石川県立美術館だより
第347号 毎月発行)
2012年9月1日発行

〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel: 076(231)7580
Fax: 076(224)9550
URL: http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/